

# パパとママの子育てプロジェクト

～仕事・家事・育児のハッピーバランスを目指そう～

## 開催結果

---

令和5年3月30日（木）

長崎県 県民生活環境部 男女参画・女性活躍推進室

# 1 開催概要

## 開催日時

令和5年1月22日（日曜日）  
13時～15時30分

## 開催場所

長崎県庁 1階大会議室 A B C

## 参加対象

子育て中のパパ・ママ・子どもたち、プレパパ・プレママ

## 参加者数

167名（会場：108名、オンライン59名）  
※会場108名のうち子ども42名

## 内容

- 【第1部】大久保嘉人さんトークライブ
- 【第2部】大久保嘉人さんと大石知事のスペシャルトーク
- 【第3部】子育て中のパパ・ママトーク

**パパとママの  
子育てプロジェクト**

子育て中のパパ・ママ・子どもたち、  
プレパパ・プレママ  
ぜひご参加ください！  
**参加費無料**

※事前申込要  
お申し込み方法は裏面を  
ご覧ください。

キッズスペース  
あり！  
お子さまもいっしょに  
参加できます。

仕事・家事・育児の  
ハッピーバランスを目指そう

会場参加  
定員100名  
オンライン参加  
定員200名

2023年  
**1月22日** 日 13:00～15:30（開場12:30）

会場 **長崎県庁1階 大会議室A・B・C**

※新型コロナウイルス感染症拡大状況によりましては、オンライン開催のみとなるなど、  
内容を変更する場合がありますので、予めご了承ください。

イクメンオブザイヤー2022受賞

第1部 大久保嘉人氏トークライブ 13:10～

現役最後のシーズン、セレッソ大阪への復帰が決まった際、三男の「俺も行く」という言葉から、大阪での“子連れ単身赴任生活”がスタート。プロサッカー選手でありながら“主夫”としても奮闘された時のご自身の経験を語ります。

第2部 大久保嘉人氏と大石知事によるスペシャルトーク 13:55～

第3部 子育て中のパパ・ママトーク 14:05～

MC・ファシリテーター  
NBCラジオパーソナリティー  
高月 晶子 氏

出演者  
●大久保 嘉人 氏  
●育休をとった子育て中のパパ ●子育て中のママ

長崎県 県民生活環境部 男女参画・女性活躍推進室 TEL.095-822-4729 FAX.095-822-4739

### 大久保嘉人さんプロフィール

- 1982年6月、福岡県生まれ。
- 国見高校3年時に高校3冠を達成。セレッソ大阪でプロキャリアをスタート。スペイン、ドイツなど海外リーグ、国内の数クラブを経て、2021年古巣のセレッソ大阪を最後に現役を引退。日本代表としてアテネオリンピック、FIFAワールドカップ南アフリカ大会、同ブラジル大会などに出場。
- 妻の莉瑛さんとの間に4男。
- セレッソ移籍を機に大阪にて、三男と父子二人生活を送った経験を「俺は主夫。職業、現役」リーガー」として出版。
- 第12回イクメンオブザイヤー2022スポーツレジエント部門を受賞。



## 第1部 ▶ 大久保嘉人さんトークライブ



### 主なトーク内容

- 子どもと2人暮らしする前、家事・子育ては妻に任せっきりで。いざ自分がやってみると、食事の準備や学校の連絡帳などが大変でした。家事・子育ては毎日やらなければいけない事だらけで終わりはありません。大阪での生活のおかげで、家事・子育ての大変さが理解できました。
- 自分の家事・子育てに完璧を求めませんでした。完璧を求めると「自分はちゃんとやれてないな…」と考えて、苦しくなって辛くなります。“適当でいいや”の心持ちでやっても意外とちゃんとできています。パパの皆さんには、完璧を求めないで気軽に家事・子育てをやってみてほしいです。
- 「仕事・家事・育児のハットトリック」を決めましょう。仕事も家事も子育てもどれも大事なので、それぞれをバランスよくやって、ハットトリックを決められれば気持ちいいですし達成感がありますね。

## 第2部 大久保嘉人さんと大石知事のスペシャルトーク



- 「1982年生まれ（誕生日1カ月違い）」「子ども」「高校時代に全国大会出場」の共通点がある大久保さんと大石知事の人となりに関するトークが繰り広げられました。 ※トークテーマは以下の3つ
  - ① 大久保さん（サッカー）・大石知事（ラグビー）それぞれのスポーツを選んだきっかけ
  - ② 記憶に残っている練習
  - ③ 大久保さん（子ども4人）・大石知事（子ども3人）それぞれの子どもとの遊び方

## 第3部 ▶ 子育て中のパパ・ママトーク



大久保嘉人的 家事の心得 7か条

- 1 すぐにやる
- 2 無理をしない
- 3 新しいことに挑戦する
- 4 ルーティーンはつくらない
- 5 すべてを楽しむ
- 6 自分のやり方を見つける
- 7 やりながら修正する

パパママの  
子育てプロジェクト  
令和5年1月22日 @長崎県庁

- 大久保さんと子育て中のパパ2人・ママ1人で、以下をテーマにトークが繰り広げられました。
  - ① 育休取得の経緯、所属企業の取組内容
  - ② 子どもとの遊び方（おすすめの公園・絵本・おもちゃなど）
  - ③ 私の家事エピソード
  - ④ 出生動向基本調査の結果
  - ⑤ 自分はイクメン？
  - ⑥ これからの時代のパパとは？
- 大久保さん自身の経験の中から生まれた「家事の心得 7か条」が紹介されました。
- 大久保さん・パパ・ママのトークを聴いて、最後に大石知事が「家事や子育ては、パパとママのどちらかではなく、互いに協力して行うもの。楽しんでやるためには“無理をしない”“完璧を求めない”という気持ちも大切」と感想を述べられました。

イベントのアーカイブ動画を長崎県公式YouTubeチャンネルで公開しています

### 第1部 ▶ 大久保嘉人さんトークライブ

➡ <https://youtu.be/48JxCq2rg9M>



### 第2部 ▶ 大久保嘉人さんと大石知事のスペシャルトーク

➡ <https://youtu.be/A9BZaMfGfLs>



### 第3部 ▶ 子育て中のパパ・ママトーク

➡ [https://youtu.be/5h\\_MKg7XBa8](https://youtu.be/5h_MKg7XBa8)



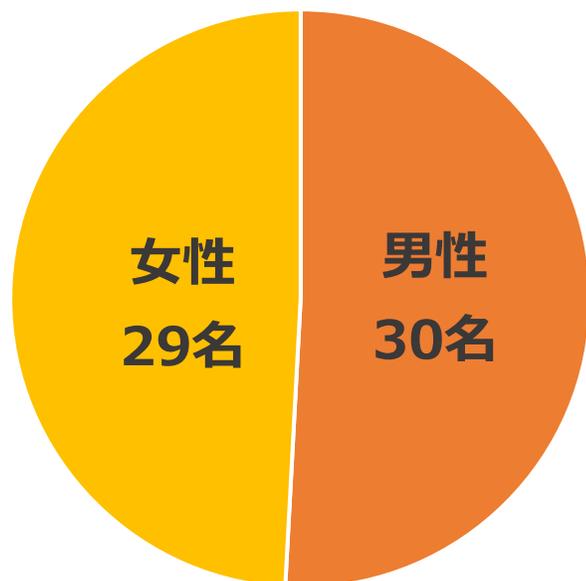
## 4 アンケートの結果

### 回答状況

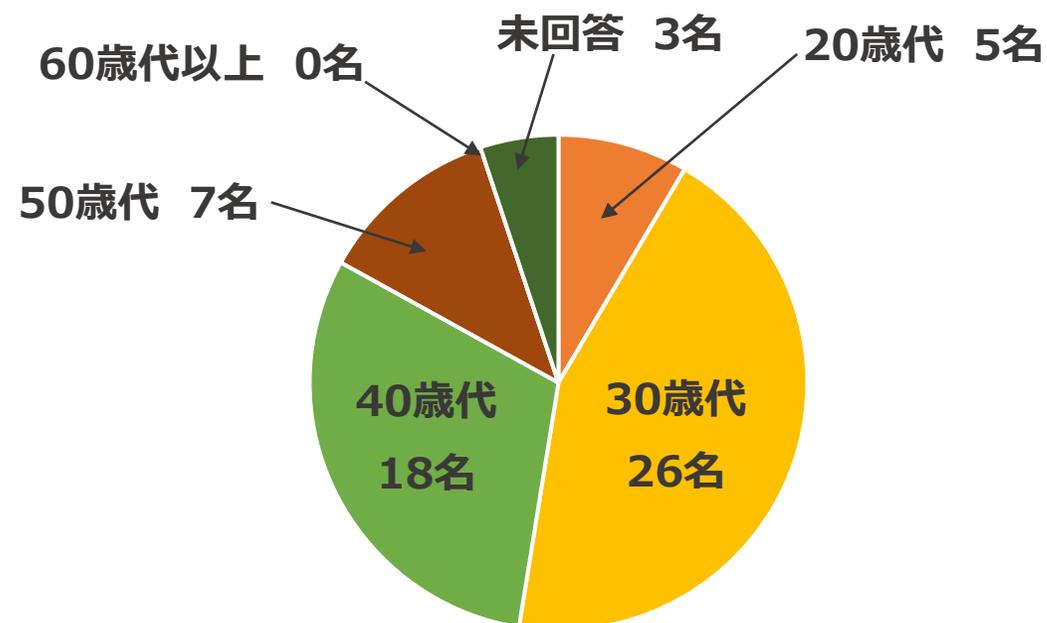
回答あり	回答なし	計
59名	66名	125名
(47.2%)	(52.8%)	(100%)

※125名 = 会場（成人）66名 + オンライン59名

### 性別



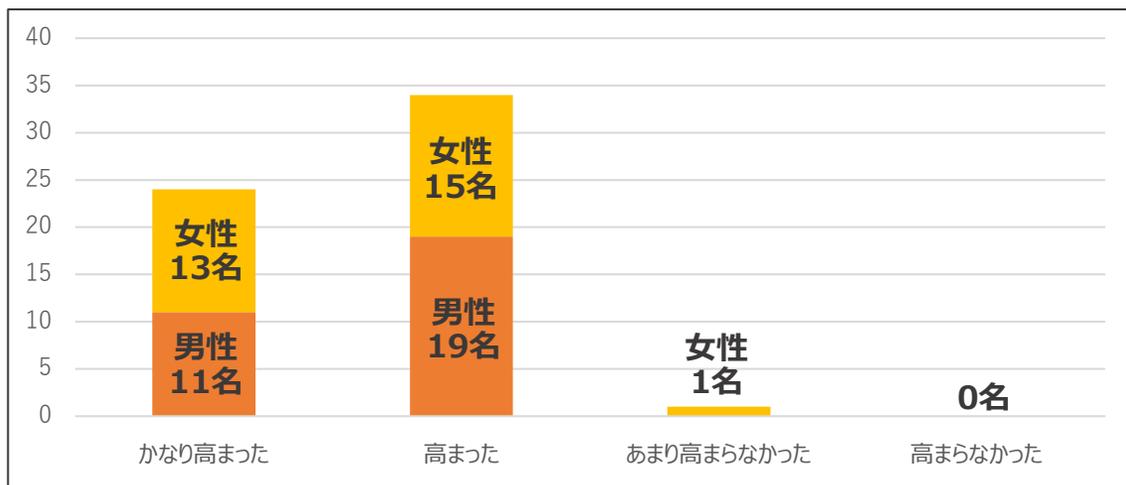
### 年齢層



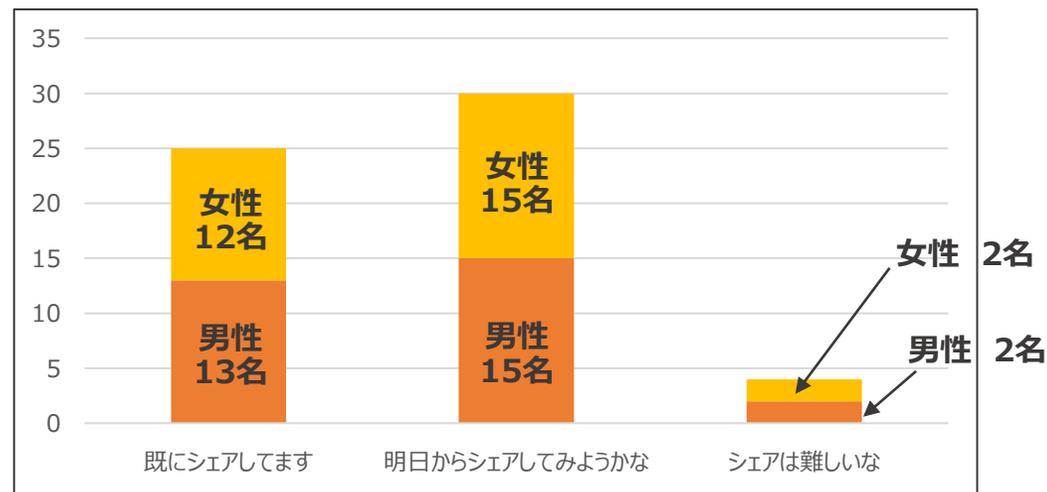
## 4 アンケートの結果

イベントに参加して、夫婦間での家事・子育てのシェアについて意識が高まりましたか？

(パパとママのどちらか一方が頑張るのではなく、互いに協力して家事・子育てをしていこうという意識が高まりましたか？)



家事・子育てのシェアについて、「早速、明日から●●を始めてみようかな！」などという気持ちになりましたか？



上記の設問の回答数で、男女間の差はほとんど見られません。男女ともに同じ程度の意識の高まりや変化がありました。

家事・子育てのシェアを進めるには男女間の意識の差がないことが理想です

## 4 アンケートの結果

### イベントの感想（自由記述） ※一部抜粋

- 大久保さんのチャレンジ精神には本当に驚きました。分からないからやらないじゃなく、まずやってみる！色々な経験をしたからこそ言える言葉がたくさん聞け、すごい方だなと改めて思いました。知事との対談も和やかな雰囲気で行われ、これからの長崎はどんどん新しく生まれ変わる時代になるんだろうなと感じました。
- 大久保さんを起用した目の付け所がすごい！家事に関して、一人暮らしや単身赴任の経験があればやりやすいのではないかと思います。ちょっとした視点の切り替え、時間の使い方ですいぶん変わるのではないかと？育児休業取得の難しさはまだまだあるでしょうが、こうしたトークイベントの積み重ねが世の中の雰囲気を変え、必ず良い効果につながると思います。
- 育休取得率も大事ですが、「取っただけ育休」にならないように、育休の時期や事前の計画(夫婦での)、途中経過の面談等、中身を充実させる案内やサポートも必要だと思いました。
- ごく短期間の育休取得では、妻さんから批判が出ると思います。それだけで何するのとか、それでやってる感出さないでよとか。
- プレパパ・プレママで参加しました。子どもは2人の子であって、子育ては2人で協力し合うのが当たり前なので、イクメンという言葉は一昔前だよなあと思いました。
- PTAの役員をしています。勤務している会社の理解もあり続けることができます。育児は、生まれてすぐの育児休暇を取るタイミングだけではなく、幼稚園や小学校に上がっても、授業参観やPTA活動、地元の子供会など様々な活動があります。そのような活動への参加に対する時間休暇等の制度や啓蒙を行政でも取り組んでいただきたい。
- 私は40代女性で、フルタイムで働く傍らほぼワンオペで育児・家事を担っています。夫は自営業の小さな店に勤め、育休取得など夢のまた夢という世界ですが、そんな小さな店こそが果たせる地域文化への貢献もあり、パートナーとして支えたく、ワンオペに耐えています。子供は1人しか持てませんでした。私も夫も家事・育児の分担の大切さは分かっていますが、このように世間の変化や制度の恩恵を受けづらいケースも多々あるはずで、様々なケースに救済の手が届くよう、例えば手当や給付金に、業態や労働時間に応じた傾斜をつけるなど、きめ細かな方法が導入されるととても助かります。